

STAGE+を楽しむ(201)(HP 収載)
—ボムソリとケルン放送交響楽団—

1. 始めに

前報(200)に引き続き、STAGE+のボムソリとケルン放送交響楽団の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は STAGE+のボムソリとケルン放送交響楽団の演奏を選びました。

収録配信 2024年9月22日 9:00

マチェラルが R.シュトラウス、ワーグナー、ボニスにブルッフを指揮
ボムソリを迎えて

再配信 2024年9月22日 20:00

クリスティアン・マチェラルがケルン放送交響楽団を率い、ボムソリをソリストに迎えたブルッフのヴァイオリン協奏曲と、シュトラウス、ワーグナー、メル・ボニスによる傑作をフィーチャーした魅力的なプログラムをお届けします。ボニスによる小品《サロメ》は、同題材を元にしたシュトラウスの画期的なオペラからわずか4年後に発表されたもので、シュトラウス初期を代表する2つの交響詩と絶妙なコントラストを生んでいます。ドイツ・ロマン派を象徴するブルッフの協奏曲は、ドラマチックな第1楽章、琴線に触れるアダージョ、スリリングな終曲から構成され、演奏家にも聴衆にも長く愛されている不朽の作品です。

ソリスト:

キム・ボムソリ (ヴァイオリン)

演奏:

ケルン放送交響楽団

指揮:

クリスティアン・マチェラル

曲目:

リヒャルト・シュトラウス 交響詩《ドン・ファン》 op. 20

マックス・ブルッフ ヴァイオリン協奏曲第1番ト短調 op. 26

メル・ボニス 《サロメ》 op. 100/2 (管弦楽版)

リヒャルト・シュトラウス 交響詩《死と変容(浄化)》 op. 24

リヒャルト・ワーグナー 《タンホイザー》序曲



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

曲目のボニスの《サロメ》以外は、お馴染みの曲です。

シュトラウスの交響詩《ドン・ファン》は、シュトラウスらしい色彩感のある曲です。

ブルッフのヴァイオリン協奏曲第1番は、アナログ盤でお馴染みです。ボムソリのヴィブラートの効いた清楚で抒情的な演奏です。

ボニスの《サロメ》は、初めて聴くもので、ピアノ曲からの編曲のようです。

シュトラウスの交響詩《死と変容(浄化)》は、寂し気なところからおどろおどろしい表情までダイナミックな演奏です。

ワーグナーの《タンホイザー》序曲は、ヤンソンス指揮バイエルン放送管弦楽団で聴きました。ケルンとバイエルンの同じ放送交響楽団の演奏のせいでしょうか、オーソドックスなドイツの交響楽団らしい、よくまとまった演奏です。





4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、ボムソリの弾くブルッフの清楚な表情から、死と変容の恐ろしい表情までしっかりと聴かせてくれました。

以上